

HOT! FUN! IWAKI!

MIRAIの 医療ZINE(人)

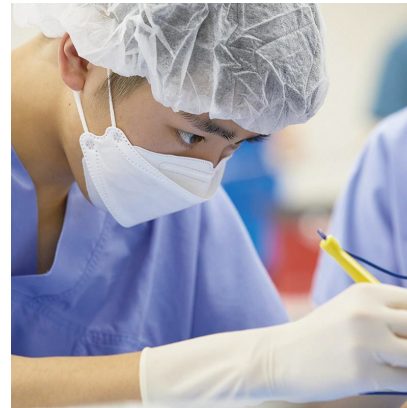
体験した生徒の声

▶体験・見学を通して、緊張感と集中で自分が汗をかき、疲弊していることに何度も気付きました。実際の患者さんに対して、長時間向き合うことの大変さを理解するとともに、医師になりたいという気持ちが強まりました。

▶医師の大変さが少し分かりました。患者の命を救うために24時間体制で働いて、自分の身を削りながら、地域の方々の命を助けているんだと改めて感じました。しかし、それだけやりがいのある仕事だとも思いました。医師は、ただ診察し手術すればいいのではなく、患者さんや共に働く仲間など、人と関わる力が最も重要なんだと知ることができました。私もそうなれるように頑張りたいと思います。

▶医師、看護師、検査技師など、様々な専門家が協力して手術や診療を行うチームワークと連携の重要性を知ることができました。

▶医療センターに医師として戻ってこれるよう、絶対に医学部に合格したいと強く思いました。



(上)集中した真剣なまなざしがMIRAIの医療人／(下)医療センターの新谷病院事業管理者、吉田副診療局長と生徒の皆さん

＼ ここでは紹介しきれないので、ぜひサイトをのぞいてみてください！ ／

WEB サイト **<https://iwakinoiryo.com>**



編集後記

忙しい中、それでもこれからの医療を担うかもしれない若き高校生の皆さんへ寸暇を惜しんで、医療体験の機会を提供して下さった医療関係者の皆さん、本当にありがとうございます。そして、その思いを十分に頭と体と心、全身で感じ取って下さった高校生の皆さん。ただ漠然と医療の道、医学部へ進むのではなく、いわきの医療の現場の厳しさとやりがい、責任感と情熱、そして病院の垣根を超えてこれからの医療人を育てという連携を、肌で感じた若き皆さんはきっとステキな「MIRAIの医療人」となってくれるんだと思います。

取材協力

いわき市医療センター、ときわ会常磐病院、福島県立磐城高校

 いわきの

 地域医療

SNS


 いわきの医


Follow Us!!!



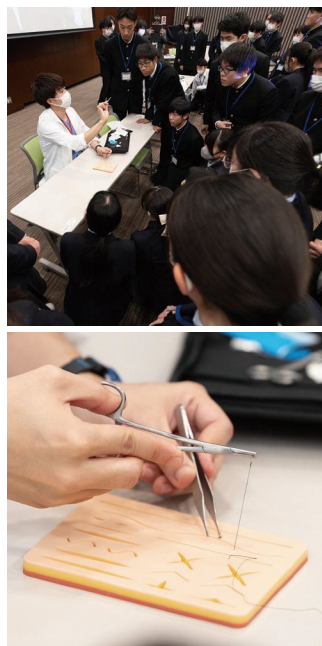
特集 高校生、医療に出会い、ふれる



高校生、医療に出会い、ふれる

福島県いわき市にある県立磐城高校では、令和4年度から「医学コース」が新設されました。医療の道へ進みたいという生徒向けの専門コース誕生を機に、いわき市医師会、市内の病院で構成されるいわき市病院協議会、そして行政が連携しながら、高校生への取り組みを手探りで展開しはじめました。今回の『MIRAIの医療ZINE (人) vol.4』では、冬休み期間中に行われた、高校1年生向け「縫合体験会」と2年生の「病院見学＆手術体験」の模様を、生徒の皆さんの感想コメントを中心にお送りします。

文＝猪狩僚 写真＝鈴木宇宙／熊田誠



(上)小鹿山先生の丁寧なレクチャーを真剣に聞く1年生の皆さん

実際にやってみたから分かった、医師のすごさ

12月26日にいわき駅前LATOV(ラトブ)6階の産業創造館で、医学部進学を希望する高校1年生を対象に行われたのは「外科医の先生から学ぶ縫合体験」。磐城高校から37名の1年生が参加しました。教えてくださる講師のドクターは、常磐病院の外科医、澤野豊明先生と磐城高校のOBでもある大阪国際がんセンターの消化器外科医、小鹿山陽介先生のお二人。

まずは実際の腹腔鏡手術の動画を見ながら手術や縫合についてのお話。ついで、縫合の種類とそれぞれのやり方についてレクチャーしたあと、生徒一人ひとりに縫合体験キットが配られ、実践スタート！とまどいや困惑の声があちこちから聞こえてきましたが、澤野先生と小鹿山先生がみんなのテーブルを回りながら、やさしく丁寧にアドバイスしてくださり、生徒の皆さんも徐々にコツを掴んでいきました。



医療に興味を持つ同学年の仲間とともに慣れないながらも縫合体験に挑戦。澤野先生が優しく教えてくださった

体験した生徒の声

▶初めて医療器具に触れて縫合体験できました。自分の縫合と講師の先生のお手本を比べてみることで、外科医のすごさを身をもって感じることができました。

▶実際に自分で縫合してみると、3、4針縫うだけで疲れてしまいました。手術によっては長時間、集中して人の命を守る医師のすごさを改めて感じました。



澤野先生・小鹿山先生と総勢37名の高校1年生の皆さん。「医療に出会い、ふれる」一歩目を踏み出した

▶現役のドクターのお話を聞くことができた上に、縫合体験も魅力的で、モチベーションアップにつながりました。ますます、医学への興味が深まりました。

2年生は、医療の最前線・病院へ行く(常磐病院編)

高校1年生は縫合体験で医療の一步目をスタートする。2年生になると病院を訪れ、医療の実際の現場を肌で体感してもらうという展開にしています。医療の最前線である病院の見学なので、診療の邪魔にならないこと、また感染防止の点からも、大人数にならないよう2つの病院に分かれて見学しました。

年明け早々の1月5日に2年生の皆さん14名を迎えてくれたのは常磐病院。まずは、看護師さんによる感染症対策研修。医療機関にお邪魔すること、医療機関で働く上での基本のキとして、感染症対策のレクチャーをしっかり受けます。生徒の感想を一つ。

「指の消毒について、自分は手洗いはきれいにしている自信があったんですが、ライトに当てて確認してみると、手の甲が全然洗えていなくて驚きました。自分の手洗いや消毒の現状を知ることができ、今回学んだ手洗いをこれから活かしていきます」

その後、院内の見学と、最先端の医療機器である手術支援ロボット「ダヴィンチ」を実際に体験するというコース。いわき市内に2台しかない最新医療機器を高校生の段階から触れ、操作することができる貴重な体験。これもまた、いわきの医療人の皆さんの若者に寄せる熱い想いがあってこそ。

体験した生徒の声

▶今回の常磐病院見学では、ダビンチの体験や普段では立ち入ることのできないエリアの見学など貴重な体験をさせていただきました。その中で「この地域の医療を守っていく力強さ」を感じることができました。

▶今日の見学で、より一層、医療に対する関心が高まり、モチベーションへもつながりました。高校生活残り1年全力



(左)自分の手洗いの現状をライトで確認／(右)最新医療機器「ダビンチ」の前で常磐病院新村院長、磐城高校OBの小野先生と2年生の皆さん

で頑張って、医学部に合格できるようにしたいです。

▶地域医療は社会が健全に活動していくために必要不可欠なものであると感じました。病院や医療は、手術などの重いケースにのみ対応するものではなく、風邪やアレルギーなど比較的軽い症状にも対応してくれるものであることが今回の見学で分かった。病気やケガという非日常だけでなく、健康診断や献血など日常的な暮らしとも医療は、結びついている。私たちの暮らしと地域医療との結びつきは、思っていた以上に広く深いことを今回の見学を通して、学ぶことができました。

2年生は、医療の最前線・病院へ行く(医療センター編)

高校2年生のもう一方のグループ12名が訪れたのは、いわき市医療センター。まずはいわき市医療センターのトップ、新谷史明病院事業管理者から「医療とは」や「いわきの医療の現状と医療センターの役割」などの講話を頂戴しました。その後、外科手術体験へと移っていくのですが、なんと生徒の皆さんに実際の手術着に着替えて体験を行ってもらう流れに。医療センターの本気度を感じます。

実際の手術室の見学や、最新のダビンチを体験するプログラムが進みますが、これだけでは終わりません。スーパーに売られている見慣れた鳥もも肉を使つての電気メス体験に、医療機器を使って輪ゴムを挟んで移動させる腹腔鏡手術体験まで。1年生の時に縫合体験を経験した皆さんが2年生になり、実際の現場でのバリエーション豊かな外科手術体験を受ける。医療体験のステージも学年とともに上がるように設計してあるんです。

裏面につづく ➡



初めてふれる医療器具に戸惑いながらも、医療センターのドクターの皆さんが優しく丁寧に教えてくださった